

北海道から発見された日本初記録のキタミトホシカミキリ

佐々木恵一¹⁾・細川浩司²⁾・長谷川道明³⁾

¹⁾ 〒 078-8239 旭川市豊岡9条7丁目8-6

²⁾ 〒 458-0033 名古屋市緑区相原郷2-912-2

³⁾ 〒 441-3147 豊橋市大岩町字大穴1-238 豊橋市自然史博物館

Saperda perforata (Pallas, 1773) (Cerambycidae, Lamiinae, Saperdini),
Newly Recorded for Japanese Fauna from Hokkaido

Keiichi SASAKI, Kōji HOSOKAWA and Michiaki HASEGAWA

はじめに

筆者の一人、佐々木は、2016年の夏に北海道オホーツク総合振興局管内北見市常呂栄浦において、甲虫相の調査中、ライトFITトラップで、トホシカミキリ属 (*Saperda*) の未知種を採集した。翌年、佐々木と共同調査者の松本英明氏は、ライトトラップやチョウセンヤマナラシのスイーピングなどによって、同種の追加個体を採集し、さらに佐々木と細川は、チョウセンヤマナラシの枯死木より幼虫を採集し、複数の雌雄成虫の標本を得ることに成功した。これらの標本を長谷川が詳しく調査した結果、本種は、日本からこれまで記録のなかった *Saperda*

perforata (Pallas, 1773) であることが判明した。

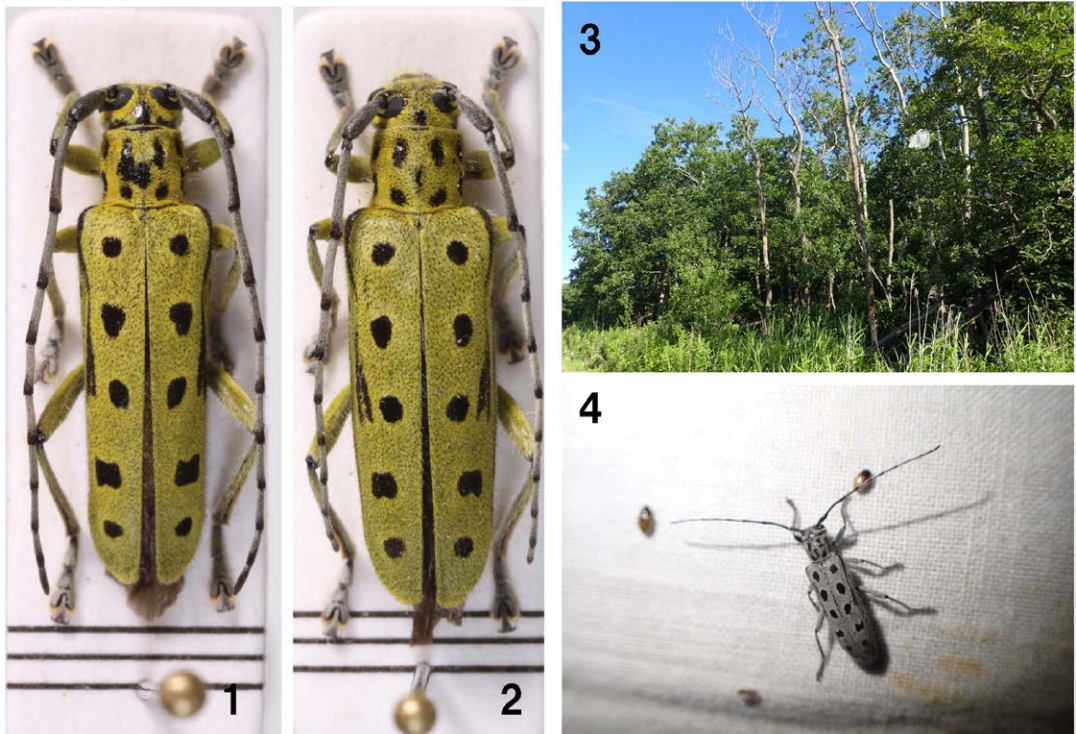
本報告では、北見市で発見されたことにちなみ本種に「キタミトホシカミキリ」の新称和名を提唱し、形態的な特徴や日本での採集記録、生態的知見、生息環境について報告する。

キタミトホシカミキリ (和名新称)

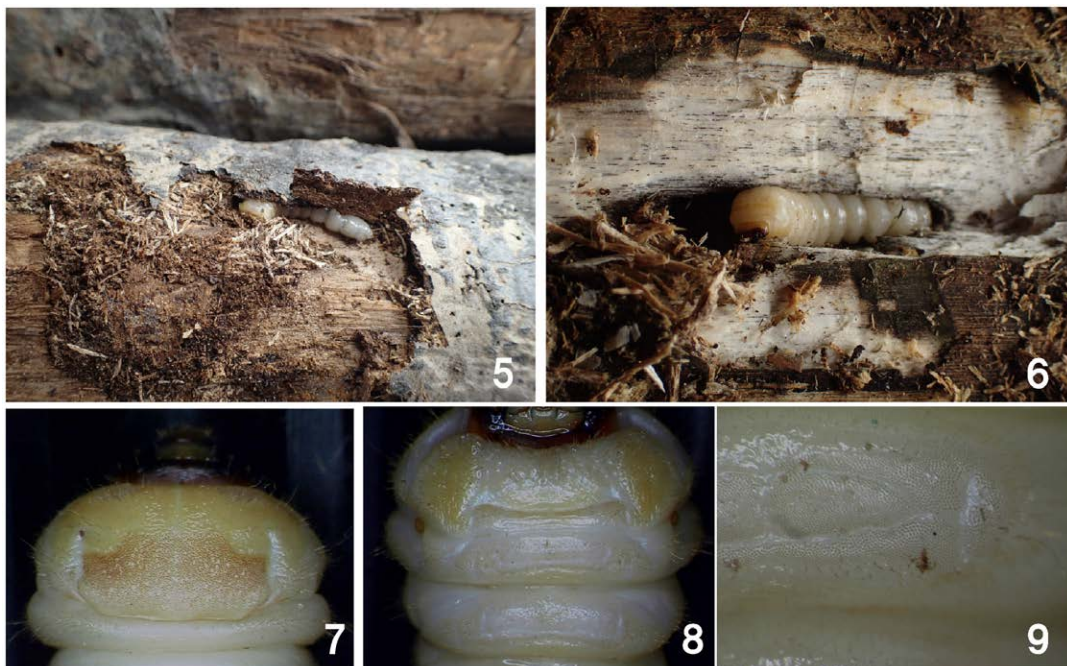
Saperda (Lopezcolonia) perforata (Pallas, 1773)

採集記録 (採集地は、いずれも北海道北見市常呂町栄浦)

♂, 31. VII ~ 1. VIII. 2016, 佐々木 (チョウセ



Figs. 1-4. キタミトホシカミキリと生息環境。1, オス；2, メス；3, 生息環境；4, 灯火に飛来したメス (灰褐色タイプ)。



Figs. 5-9. キタミトホシカミキリの幼虫。5, 幼虫と食痕; 6, 蛹室内の幼虫; 7, 幼虫前胸背板; 8, 幼虫前胸腹板; 9, 幼虫腹部第1背板の歩行隆起。

ンヤマナラシ林内のライト FIT トラップ); 1♂, 8. VII. 2017, 佐々木・松本英明 (チョウセンヤマナラシ林の前でのライトトラップ); 1♂, 9. VII. 2017, 佐々木 (チョウセンヤマナラシ林内のライト FIT トラップ); 1♂, 15. VII. 2017, 佐々木 (チョウセンヤマナラシ生葉のスィーピング); 10♂5♀, 16. IX. 2017, 細川 (チョウセンヤマナラシ立枯れ材採取), 30. III ~ 20. V. 2018 羽化脱出; 3♂2♀, 16. IX. 2017, 佐々木 (同), 18. V ~ 25. VI. 2018, 羽化脱出; 2♂4♀, 27. V. 2018, 佐々木・松本英明 (同), 29. VI ~ 13. VII. 2018, 羽化脱出; 1♀, 30. VI. 2018, 佐々木 (チョウセンヤマナラシ生葉のスィーピング); 1♂, 14. VII. 2018, 佐々木・細川・長谷川・松本英明 (チョウセンヤマナラシ林の前でのライトトラップ); 2♂1♀, 21. VII. 2018, 佐々木・松本英明 (同)。
比較標本

3♀, Nizhnyaya, Bannovka, Saratov Reg., Russia, 5-7. VI. 1999, O. Gorbunov leg.; 1♀, Kamenka-river, Belorussia, 23. VI. 1983, Saluk leg.; 1♂, Reshki, Moscow Reg., Russia, IX. 1970 (larva), B. Mamaev leg.; 1♂, Lytkarino, Moscow Reg., Russia, A. Kandratiev leg.; 1♀, 30 km E Eletz, Mt. Morozova, C. Russia, 19. V. 2012, M. Tzurikov leg.; 1♀, near airport, Ufa env., Bashkiria, C. Russia, 5. VII. 1985, M. Nesterov leg.

成虫の形態的特徴

体長♂:13.0-15.0 mm, ♀:15.0-16.5 mm. 黒色で、体表面は明るい黄緑色~灰褐色の微毛に覆われ、前胸背には背面に4紋、両側面に各2紋、正中線状に1紋の計9つの丸~楕円型の黒紋があり、各上翅には、ほぼ等間隔に並ぶ5つの円型の黒紋と、肩部から側縁沿いに中央部付近まで延びる黒条がある。上翅背面の基部から4つ目の黒紋は、他の紋に比べて角ばり、四角形状となり、肩部から延びる黒条は、先端部分で二又になることが多い。

体表面は黒色の立毛にやや密に覆われ、触角は、オスで体長とほぼ同じ長さ、メスでは翅端にわずかに届かない。前胸背はほぼ正方形で基部はやや強くくびれる。上翅長はオスでは基部幅の2.7-2.8倍、メスでは2.5-2.6倍、両側はほぼ平行で各上翅端は丸まる。

トホシカミキリ *S. (L.) alberti* Plavilstshikov, 1916 に似るが、1) 背面を覆う微毛は明るい黄緑色または灰褐色 (トホシカミキリではより色の濃い黄褐色または灰褐色)、2) 前胸背の2対の黒紋は小さくやや不鮮明で、正中線の上に黒紋が出現する、3) 小楯版には黒紋を有さない (トホシカミキリでは1対の小黒紋を有する) 4) 上翅の5対の黒紋は小さく丸みを帯び、後方の2対の黒紋は離れて位置する (トホシカミキリでは近接する)、5) 上翅の肩部から側縁に沿って延びる黒条は中央付近までしか

届かない（トホシカミキリでは、翅端近くまで達する）等の点で区別できる。

ロシア産との比較では、オス交尾器包片（tegmen）輪状部（ring part）が日本産の方がやや短い、といった軽微な差が認められたが、分類学的な検討を要するような大きな形態的差異は認められなかった。

幼虫および生態的知見

本種幼虫の形態については、Cherepanov (1985) に詳しい記載があり、前胸背、腹背板歩行隆起の特徴は、これに図示されたものとほぼ一致した (Figs. 7-9)。

本種の寄生植物としては、海外ではポプラ類（ヤマナラシ属 *Populus*）が知られているが (Cherepanov, 1985)、北見市常呂町栄浦においてもヤマナラシ属のチョウセンヤマナラシ *Populus tremula* var. *davidiana* Schneider を寄生植物としていることを確認した。幼虫は枯死木の内樹皮部を面状に食い、蛹室は木部へ進入し木部表面から 1 cm ほどの材中に作られていた。

2017年9月16日に幼虫を確認した加害木を名古屋市内に持ち帰り飼育したところ、翌年、3月30日～5月20日にかけて成虫が羽化脱出、同日に採集した加害木を旭川市内で飼育した場合は、5月18日～6月25日にかけて成虫が羽化脱出した。また、2018年5月27日に幼虫の加害木を採集し、旭川市内で管理・飼育した際には、6月29日から7月13日に成虫が羽化脱出した。

野外では、成虫は6月30日から8月1日にかけて確認され、チョウセンヤマナラシの生葉のスウィーピングや、ライトトラップに飛来したもの (Fig. 4) が採集されている。

考察

本種は Pallas (1773) によってロシア産の標本を基に記載された種で、アフリカ北部と西はスペインから東は日本海、オホーツク海沿岸に至るユーラシア大陸に広く分布し、ポプラ類などの落葉樹を寄生植物としている (Cherepanov, 1985; Löbl &

Smetana, 2010 など)。ロシア産との形態比較では、色彩や斑紋、オス交尾器について特記すべき差異は認められなかった。

日本での発見地が東樺太海流の影響を強く受けるオホーツク海沿岸域であることや、確認された寄主植物が道東部に広く自生するチョウセンヤマナラシであること、さらに本種が確認された場所は、防風林として残された林と耕作地が広がっている地域であり、ロシア等からの輸入材等を受け入れるような施設等もないことから、日本での分布は人為的な移入と考えるよりは、自然分布していた可能性が高いと考えられる。

寄主植物として確認したチョウセンヤマナラシは、北海道、とりわけオホーツク海沿岸など北海道東部には広く見られる樹種であることから、今後、さらに広い範囲で本種の分布が確認されることが期待される。また、本種が確認された地域では、北海道内に広く分布するトホシカミキリが確認されていないことから、両種の分布上の関係の調査も今後の課題である。

本報告に当たり、採集調査にご協力いただいた旭川市の松本英明氏、東川町の鈴木敏春氏、幼虫写真の撮影と幼虫形態に関する特徴をご教示いただいた徳島市の村上構三氏、比較標本をご提供いただいたロシア科学アカデミーの Mikhail Danilevsky 博士に深謝する。

引用文献

- Cherepanov, A. I., 1985. Usachi Severnoi Azii, Lamiinae: Saperdini-Tetraopini. 256 pp. Akademiya Nauk SSSR, Novosibirsk. English translation: V. K. Stroganova (ed.), 1991. Cerambycidae of Northern Asia, vol. 3, Lamiinae, part 3. 395 pp. Oxonian Press, New Delhi.
- Pallas P. S. 1773. Reise durch verschiedene Provinzen des Russischen Reichs. Zweyter Theil. Zweytes Buch vom Jahr 1771. St. Petersburg: Kayserliche Akademie der Wissenschaften: 371-744.
- Löbl, I., & A. Smetana (eds.), 2010. Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 6. Chrysomeloidea. 924 pp. Apollo Books, Stenstrup.

(2018年8月27日受領, 2018年9月8日受理)